

## ～参観日 道徳科の授業～

資料：「ロレンゾの手紙」（「新・みんなの道徳」）

ねらい：互いに信頼し、高め合いながら友情を深めるとともに、本当の友達ならどうするかについての判断力を育てる。

あらすじ：古い友人ロレンゾが警察に捕まったという話を聞いて、3人の友人が、もしロレンゾが自分たちを訪ねてきたらどうするかについて話し合う。結局ロレンゾが無実だったということがわかるが、もしロレンゾが本当に罪を犯して帰ってきていたとしたら、自分は友人としてどうすべきだったのか、どうしていたのだろうかを改めて考え直す。



## 子ども達のふりかえり

始めは、「何でも相談できて、助けてくれる存在」が友達だと思っていたけれど、授業のあとには、相談ができるなどの前に、(自分が)信用し頼りにされる存在になることが大切だと思いました。相手も私も相手のことを信頼できているからこそ助け合えたりするのかなと思いました。

最初は、支えてくれるのが友達だと思ったけど、この勉強で、(相手の)先のことを考えられるのが友達だと思った。だから、自分の将来のことを考えてくれる友達を大切にしようと思った。そして、自分も友達の将来を考えられる人になろうと思った。

本当の友達とは、悪い方向に向かっていたら、いい方向と一緒に付き添ってってくれる人。

友達が悪いことをしていたら、友達の言うとおりにしない。ダメだったらダメと注意するのが本当の友達。

優しいだけが友達ではない。

子ども達は、「友達」という存在について、様々な角度から考えることができました。日々の道徳科の授業で考えたことや友達との対話から新たに発見したこと等を実生活に生かし、道徳性を育てるよう見守ったり声をかけたりしていきます。また、ご家庭での様子や成長を感じられたエピソードも教えていただければと思います。よろしくお願い致します。